自分たちの芝居を守るために 武蔵野市に根城を築いた前進座

藤川矢之輔さん
昭和26（1951）年生まれ。前進座住宅で育ち、市立第三小学校、第三中学校に通った生粋の武蔵野市民。祖父は前進座の創立メンバーである藤川八蔵。屋号は大坂屋。

武蔵野 History
武蔵野にまつわる歴史を楽しみながら学ぶ

武蔵野市に本拠地を構える劇団、前進座は今年、創立80周年を迎えました。日本の伝統芸能である歌舞伎を基礎としながら、現代劇や児童劇といった幅広いジャンルの劇にも挑戦する前進座は、どのように武蔵野市に根づいていったのでしょうか？　当代のリーダーである藤川矢之輔さんに前進座の歴史と展望について語っていただきました。

昭和6（1931）年の劇団設立当時はどのような状況でしたか？

前進座の設立メンバーは歌舞伎の世界にいた役者たちでした。自分たちが納得できる芝居、観客に楽しんでもらえる芝居を作りたくて、伝統的な世界から飛び出した。でも当時は、歌舞伎の世界から外に出ると、生活すらできないおそれもあった。

苦労したけど、みんな腕がよかった。先日、特集番組で50年前の芝居が放映されたけど、観始めると涙が止まらなかった。創立者の一人である中村翫右衛門さんはもちろん、僕の祖父（藤川八蔵）もうまかった。そういう腕のある人たちが、やりたい芝居をするために興したのが前進座なんですよ。

昭和12年（1937）年に武蔵野市に本拠地を構えたのはなぜですか？

腕のよかった先輩たちも暮らしには苦労していたようです。家賃を払うのに、戦々恐々としていた。稽古も、貸し座敷の二階を借りて行っていたから、立廻りなんてやったら、天井が抜けると言われて貸してもらえない。安心して住める場所と稽古場が欲しかった。言わば根城ですね。

先輩たちは映画で稼いで、武蔵野市に広い土地を買った。今、前進座劇場（吉祥寺南町3-13-2）がある一帯です。どうして武蔵野市にしたか？都心に近くて、井の頭公園が近くにあり、そして文学的な響きがある。雑木林も多くて、どこか風情がある。先輩たちはそんな武蔵野市に惹かれたんじゃないかな。

前進座では歌舞伎にとどまらず、現代劇や海外作品、児童劇なども積極的に行っていますね。

終戦直後、昭和20（1945）年11月、前進座は日比谷の帝国劇場で、

むさしの今昔物語 ～前進座の巻～

前進座が武蔵野市に本拠地を構えてから今年で74年。長い歳月は前進座を取り巻く環境を大きく変えました。

竣工したばかりの前進座。「あたりは一面の畑ですよ。ここから吉祥寺駅が見えたそうです。途中にあるのは雑木林ぐらい。前の道路には1日に7台ぐらいしか車が通らなかったと、おふくろが言ってましたよ」と矢之輔さん。役者たちは共同生活を続けながら演技を磨いていった。

現在の前進座。周囲は住宅やマンションが建ち並び、前を通る井ノ頭通りの交通量も多い。駅から劇場までの通りには小さな飲食店も多く街歩きが楽しいエリア。前進座劇場は、500席で廻り舞台と花道があるぜいたくな作り。芝居の公演のほかにも、落語の寄席も好評。

歌舞伎の『鳴神（なるかみ）』とフランスの現代劇『ツーロン港』を上演しました。会場はガラガラでしたが、2階の安い席で学生たちが、かぶりつくように芝居を観ていた。終戦がちょっと遅かったら戦地に行っていた若者たちです。彼らは、腹をすかせながら、なけなしの金で芝居を観に来てくれた。

それが戦後の前進座のスタートですよ。青年たちにいい芝居を観せなくちゃいけない。芝居を観てくれる若い世代を育てていかなければ、いい芝居を作ってもお客さんは来てくれない。青年劇場運動を始めて、外国の文学作品をどんどん上演していきました。

創立80周年記念公演に向け稽古にはげむ劇団員

そして昭和57（1982）年には前進座劇場が誕生しました。

劇場を建てたのも自分たちの芝居を守るためでした。それまでは、劇場を借りていたけれど、借り賃を払うだけで大変です。それに、劇場を造れば、芝居の生産工場になるし、役者たちの道場にもなりますからね。

建設資金をつくるために敷地の一部を売ることにしました。マンション業者に買ってもらえば高く売れたけど、そうはしなかった。当時は高層マンションの反対運動が激しかったんです。地域に育ててもらった前進座としてはそんなことはできない。

そこで武蔵野市に買っていただいて、吉祥寺南町コミュニティセンターが建てられたのです。巡業で訪れた各地からカンパも寄せられて、念願の劇場を持つことができました。

劇団80周年を迎え、前進座は何に力を入れていくのでしょう？

歌舞伎を伝えられる劇団にしたいですね。歌舞伎をきちんと修行して、その技術を身に付けた人は、他の芝居でも通用するんです。20代、30代といった次の世代を育てていくうえでも歌舞伎に力を入れていきます。

それと、ワークショップもどんどん開いて、歌舞伎を観る人たちも育てていきたい。できればこの武蔵野市から広げたいです。

子どもたちを集めて、立廻りを教えるとかね。テレビドラマを歌舞伎でやったらどうなるか、なんてのもいい。セリフもオーバーだからね。見せて、真似してもらって、歌舞伎に興味を持ってもらう。それをやりたいんですよ。ゲームじゃ味わえない体験を子どもたちに伝えたい。ぜひ、武蔵野市でやりたいですね。